

持続可能なパーム油への取り組み



食品や洗剤、シャンプーなど身の回りのたくさんのモノへ使われているパーム油。太陽油脂はパーム油を使用する企業として、パーム油産業に関わる環境面や社会面の問題に目を向け、2011年3月にRSPOに正会員として加盟しました。2015年2月からはRSPOの認証基準を満たした製品の販売を開始し、トレードマークを順次表示しています。またRSPOへ興味のある企業に対して説明を行うなど、普及活動に努めています。



太陽油脂の製品への表示

RSPOとは？



RSPO (Roundtable on Sustainable Palm Oil) とは日本語で「持続可能なパーム油のための円卓会議」といいます。パーム油の生産に関係する環境や社会、経済の問題解決に取り組むことで、「持続可能性」のあるパーム油の生産と使用を推進している国際的な非営利組織です。

生産量世界一の植物油脂



アブラヤシの実

パーム油とは、アブラヤシの実から採れる植物油脂です。現在、世界で一番多くつくられています。オレンジ色の果肉部分からはパーム油が、核と呼ばれる種子からはパーム核油が採れます。パーム油の主な生産地はインドネシアとマレーシアで、この2カ国で世界の生産量全体の約85%を占めています。日本は年間約60万トン、一人当たり約5kgのパーム油を消費しています。

パーム油の生産に伴う問題



伐採される熱帯雨林

生産量を伸ばしつつあるパーム油ですが、急速なパーム農園の増加と不適切な運営をしている農園により、その生産国や周辺の地域では自然林の伐採や火入れによる煙の被害、動物たちの住む場所が失われるといった環境問題が起きています。また企業と先住民の土地をめぐる紛争や、児童労働などの社会問題も発生しています。

パーム油を使わなければいいの？

パーム油の使用をやめて、他の植物油脂に切り替えれば良いのではないのかという考えもあります。しかし、パーム油以外の植物油脂を使用するためには、同じ量の油を収穫するために何倍もの耕地面積が必要となります。またパーム油生産国のほとんどは途上国であり、パーム油産業を国の社会的・経済的発展の柱の一つとしています。他の植物油脂へ置き換えた場合、環境面・社会面での新たな問題の発生を避けることができません。起きてしまっているさまざまな問題を解決するために必要なことは「パーム油を使わない」ことではなく、RSPOのような取り組みに参加して「パーム油をつくる方法を良いものにする」こと、そして「良い方法でつくられたパーム油を選んで使う」ことと、太陽油脂では考えています。

